オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(89)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(89)－

１．始めに

前報(88)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーの接続に NRF-005T の処理を行い、300B アンプにも NRF-005T の処理を行っています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も宗教曲です。

Westminster WST 205

モーツアルト　レクイエム ニ短調
レジナ・チェリ
アヴェ・ヴェルム・コルプス
テ・デウム
サンクト・マリア・マーテル
ヘルマン・シェルヘン指揮ウイーン国立歌劇場管弦楽団

３．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Westminster 盤は、Columbia、逆相の場合が多いのですが、クレジットには RIAA と記載されています。そこで条件を探りましたが、最終的に、RIAA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきました。

この盤には、レクイエムの他、上記のとおり宗教曲 4 曲が収録されています。

この盤のレクイエムは、盤質はあまりよくありませんが、歌劇場管弦楽団の演奏のせいか、華やかでいきおいのある演奏です。

モーツアルトのレクイエムの試聴は、アナログプレイヤーの比較試聴(36)で報告した三つの盤および前報(89)の盤と今回の盤を含めて計 5 つの盤ですが、それぞれ特徴があって興味深く聴くことができました。

他の宗教曲 4 曲は、あまり聴く機会のない曲ですが、どちらかと言えば、明るく快活で躍動的なイメージが濃いモーツアルトがこのような宗教曲を作曲していること

はあまり知られておらず、興味深く聴きましたが、やはりどこかモーツアルトらしく、宗教曲でありながら華やかな側面を感じさせてくれます。

４．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの総合的な効果として、上記の盤の特徴が把握できました。

以上